

やまなし女性の知恵委員会

環境対策班



森の山梨に、今私たちの出来ること

～地球にも人にも優しい社会作り～

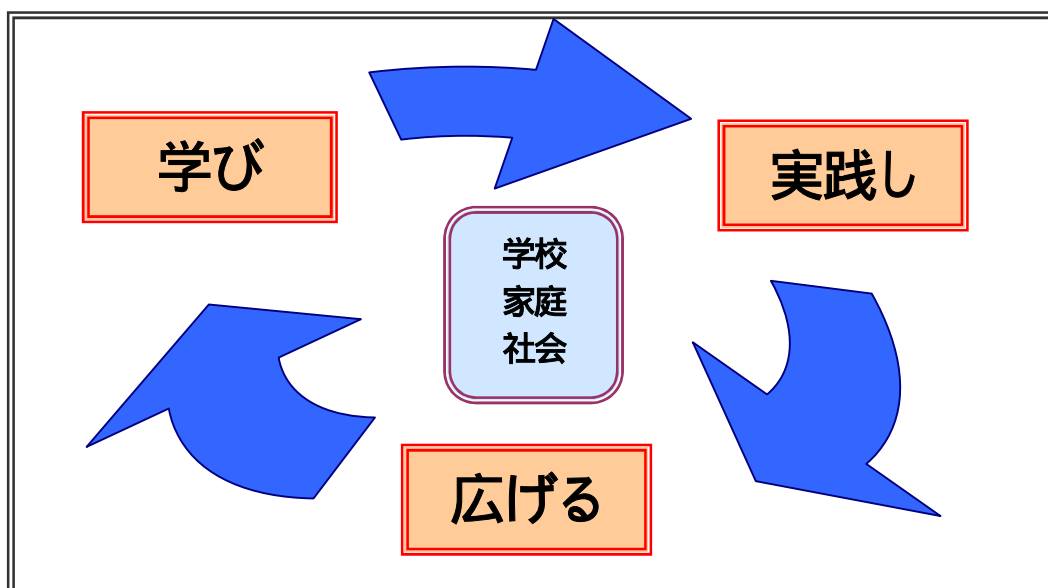
私たちの豊かな消費生活は地球環境資源を大量に消費することで成り立っていますが、今の環境が将来どうなるのかと多くの人が漠然とした不安を持っているのではないのでしょうか？

美しい山梨を地球を守るためには、日頃から環境問題への意識を高めつつ、一人ひとりが便利すぎる生活様式を見直し、環境にも人にもやさしい暮らしをしていく必要があります。私たち大人はもちろん、子どもも、そして県や市町村などの自治体、企業にもそれぞれの立場で自分のライフスタイルにあわせてできることがあるはずです。

今回私たちは環境について日頃感じていること、実践していることを通して、日常生活の中で何ができるのか、声高に「環境」と言わなくてもよい社会にするにはどうしたら良いのか、この豊かな自然を次世代に残すためにはどうしたら良いのか知恵を出し合い、山梨らしい明確な方向性、目標値を設定し家族で、地域で楽しくエコ生活実践を進めていくうえで私たちの考えた「知恵」が何らかの形で活かされることになればと思います。

環境を学び 実践し 広げる

一人ひとりが力を合わせ、環境問題に取り組むために、まずは現状を知り、環境に関する正しい知識の習得、実生活での実践、より広げ継続していくために仲間作りがどの分野にも必要と考え、県民が学び 活動し 点から線、そして面のように広げて行くことを根底にして取り組むことが大切と考えました。「学び」「実践し」「広げる」という3つのキーワードをもとに考えてみました。



・『学び』

現状を知り、正しい知識を習得していく。気づきの場でもあり、直接体験することにより、関心が生まれ、理解する力が養われる。体験から学び、お互いから学び、楽しみながら学ぶ。主体的に関われることを見つけることができ、環境問題すべてについて考えるきっかけ作りになる。

・『実践し』

体験から学び、考えたことを実践する。今までの生活を見直し、考えることから生まれる生活がある。

・『広げる』

活動を点 線 面の活動に広げていく。共に活動をする仲間が生まれ、活動にも広がりができ、そこから新たな学びへと繋がる。

1 . 環境教育

将来を担う子どもたちには環境教育が重要です。子どもの頃に環境に対する意識を持つことができれば、大人になってもその意識を持ち続けることができるでしょう。また、私たち大人にとっても環境に対する意識を持ち、高めていくためには、環境教育が必要であることは言うまでもありません。

環境を守ることを学び、体験する中で、自分のことだけでなく、地球全体のことを考えて行動できるようになれば社会全体が変わってくるのではないのでしょうか。

自ら体験し、学び感じたことを、体験していない人に話し、追体験してもらいます。体験を共有し、ともに動き、意見交換をすることにより、気づきが生まれ、新たな視点でとらえられるようになります。また新たな一歩がスタートするのです。「学び」「実践し」「広げる」を通して、体全体で理解し、自然や環境のことを自分の問題として考えられるようになるはずです。体験したら終わりではなく、新たに得たことを普段の生活にどう活かしていくのかが大切になります。

子どもたちにこうした機会を設けること、そして、私たち自身もこうした機会を積極的に持つことは、私たち大人の社会的責任なのではないのでしょうか。

私たちがこのような責任を果たしていくために、以下のような環境教育の実践を提案します。

環境教室

- ・ 子ども向けの環境紙芝居、DVD、写真などを通して、具体的に分かりやすく説明する。身近に感じることが行動に繋がる。学校での環境学習と併せて、自分が何をすればよいかを考えるきっかけづくりとする。

- ・ 自然環境、地球環境、大気、水など多様な分野の環境教室を行う。
- ・ ゴミを地域でどのように集めているか、ゴミの出し方のマナー、ゴミを減らす工夫などについて学ぶ。
- ・ 地域による偏りがないように開催する。
- ・ 産官学・市民団体等との提携による環境講座の実施、環境学習教材の貸し出しを行う。

キャンプ

- ・ 日常生活から離れ、普段当たり前にあると思っているものがない時間を過ごす。火がない、電気がないといった不便な生活を体験し、今の便利な生活について考える機会を持つ。自然と共生していくことも学ぶ。

農業体験

- ・ 土や水の現状を知り(生き物調査)、きれいな土、水にするためには自分たちは何をすべきか話し合い、考える、そして実行する。収穫したものを自分たちで調理し、森や農業、食の大切さも学ぶ。
- ・ 安全で安心な物を作ったり食べたりするためにも、地産地消・フードマイレージの角度からも学習する。

キャップ集め

- ・ ペットボトルのキャップを分別し、ゴミではなく資源として活用する。回収したキャップはワクチン購入の資金に充てる。今まで捨てていたものが、有効に活用できることを知り、身近にできる活動として広げていく。あわせて収集を目的とするのではなく、ペットボトルを減らすことも考える。

緑のカーテン

- ・ つる性植物を利用した緑のカーテンは、室温の上昇を抑える効果があり、学校、家庭、企業など様々な場所でできる。夏の暑い日に、エアコンをつけると部屋は涼しくなるが、地球の温度は上がる。自分だけが涼しくなるのではなく、地球を涼しくする工夫を考え、実践する。

廃油リサイクル、菜の花プロジェクト

- ・ 資源が循環していることを学び、実践に結びつけていく。
菜の花を植え、菜種を収穫し、搾油して菜種油にする。それを料理や給食に使う。廃食油は回収し、石鹼や代替燃料にリサイクルする。

子どもクラブの交流

- ・ それぞれの活動を交流の中で報告し、情報交換をする。そのことにより、体験を共有し、お互いに取り入れていく。
- ・ 地域の方々やNPOなどの市民団体ともネットワークを構築する。

また、上記の環境教育が容易に取り組めるように、以下の提案をします。

情報を公開し、山梨県の現状が分かるようにする。

- ・ 県の取り組み
- ・ 環境教育・活動にはどのようなものがあるか
- ・ 講習会、研修会の講師にはどんな人材がいるのか
- ・ 山梨県の環境の現状はどうか

など、環境教育・環境に関することが一目で分かるホームページが必要ではないでしょうか。

分かりやすく、見やすいホームページの作成を中心に、情報の公開に取り組んでいただきたいと思います。

人材を育成する。

将来ある子どもたちに、そして、私たち大人に教えていく人材を育てていくことがとても重要になります。それには、環境人材バンクなどを作り、登録していくことも必要になってきます。

2. エコドライブ

私たちの住んでいる山梨県の自動車保有率は全国第3位で、自動車を利用する人も多く、自動車への依存率は約90%となっています。このような現状の中で、環境に与える影響は計り知れないものがあります。自動車に乗る機会が多い私たち大人が身近にできることの一つは、エコドライブではないでしょうか。

エコドライブを浸透、実践させるためには、その効果をアピールすることが大切です。エコドライブは環境面だけでなく、経済面・安全面でもプラスになります。

私たちができる地球への優しい思いやりの一つがエコドライブなのです。以下のことを提案します。

運転免許の取得時、更新時などにエコドライブの啓発を充実させる。

運転免許の取得時、更新時の講習などでエコドライブの啓発を充実させ、講習後、エコドライブ宣言をした受講者にはエコドライブ啓発ステッカーを配付します。エコドライブは、個人の意識によるところが大きいので、この機会にエコドライブに対する意識を高めることが重要です。

・ 山梨県の自動車台数のうち、20%がエコドライブ宣言をすることを目標とする。

エコドライブ講習を実施する。

まず大切なことは、エコドライブ講習を実施していることを多くの人に知らせることです。そして、より多くの人エコドライブ講習に参加できるように、現在行われているエコドライブ講習の回数を増やすことも必要です。エコドライブを身近なものとしてとらえ、実践していく人を一人でも多くしていくためには、企業や教習所などとも協力して、講習内容を工夫していく必要もあります。

「エコドライブ10のすすめ」を周知させ広げる。

「エコドライブ10のすすめ」とは、数あるエコドライブの取り組みの中から、効果や実践しやすさから最も勧めたい10個の項目を表したものです。

「ふんわりアクセル『eスタート』 - やさしい発進を心がけましょう。」「エアコンの使用を控えめに - 車内を冷やし過ぎないようにしましょう。」「アイドリングストップ - 無用なアイドリングをやめましょう。」「不要な荷物は積まずに走行 - 不要な荷物は積まないようにしましょう。」などの10項目からなり、私たちの運転の参考となり、実践に必要なものだと思います。

しかし、「エコドライブ10のすすめ」があることを知らない人もいます。ホームページだけでは

なく、ポスターなどを作成し、インターネットを利用しない人にも広く知らせていくことが大切です。視覚に訴えるというのはとても効果があると思います。印象に残り、エコドライブの効果が分かるようなポスターを作成する必要があります。ポスターを公募することも有効だと思います。話題になり、目にする機会が増えれば、より多くの人に知ってもらえます。

ポスターは県の施設、総合交通センター、自動車教習所などはもちろん、多くの人の目に触れる場所などにも貼る必要があります。

3. 環境家計簿

環境家計簿をつけることにより、日常生活でCO₂をどのくらい排出しているか分かり、自分の家庭のCO₂排出量を平均値と比較して、客観的に評価でき、環境への負担が少ない生活を考えるきっかけになります。

環境家計簿を全世帯に配布し、「環境家計簿」の存在を知ってもらい、環境家計簿をつけることにより、一人一人の意識を変えることが大切です。そのためには環境家計簿をつけることの意味、つけることによってどんな利点があるのかを、詳しく説明する必要があります。つけることの重要性が伝わらなければ全世帯に配付しても意味がありません。そのためには、行政が今しなければならぬこととして、真剣に取り組んでいるのだと住民に知ってもらう必要性があります。

環境家計簿をつけたことによって、環境に対する意識を持ち、一人一人が生活を見直す、考える、実行する - こうした地道な取り組みが実を結んでいくのではないのでしょうか。

環境家計簿を話題とし、家族で考える良い機会にもなります。自分の部屋で過ごしていた時間を減らし、一つの部屋で、家族団らんで過ごす時間を増やすことにより、光熱費が削減でき、家族のコミュニケーションづくりにもなります。子どもに考えられること、大人に考えられること、いろいろあります。皆で「今の生活 - 便利で快適な生活」について考え、話すこともできます。その中には、様々な「気づき」があり、そこから創意工夫も生まれるでしょう。この創意工夫が無理なもの、苦しいものでは長続きしません。皆で話すことによって、楽しく、気軽に続けていけるような工夫、知恵が生まれるかもしれません。

家族で話したことが、友達や学校、そして地域に広がっていくようになれば素晴らしいことです。一人一人の意識が変われば、大きな広がりとなり、やがて社会が変わります。

そのためには、多くの人に環境家計簿を付けてもらえるような工夫が必要になります。例えば、環境学習が学校で行われる小学4年生世帯を対象に環境家計簿を配付し、子どもが学んだことを各家庭で共に考え、実践していくことも有効ではないでしょうか。

現在の環境家計簿には、次のような工夫が必要だと考え、以下のことを提案します。

環境家計簿を分かりやすく、記入しやすいものにし、つける人を増やす。併せて、回収率を上げるために回収方法を検討する。

今までのものは記入項目が多く、時間や手間がかかるため、環境家計簿をつける人が少ない原因になっている。使用量がはっきり分かるもの(例えば電気、水道、ガスなど)に限定し、簡略化する。

家族構成別の平均値を環境家計簿(ホームページにも)に掲載し、家庭での目安とする。また、環境家計簿をつけるときに、明確な目標を持てるように、家庭でのCO₂削減率10%を目標とする。

家族構成、ライフスタイルの違いもあるので、それぞれに合った削減方法、削減項目などを考える必要がある。参考資料にも示したが、家庭でできることには様々なものがあるので、自分にあったものを見つけ、長く続けていくことが重要になる。

回収したデータを有効に使う。

一人一人が意識を変え、見直していくことが大切なので、回収結果を公表し、山梨県の現状や今後の方向性などを示す。

取り組みを広げるための動機づけや支援を行う。

削減方法の紹介や表彰(地域別回収率部門・削減部門(地域・個人別)なども考えられる。

4. エコ表彰

個人としての取り組みと併せて大切なことは、企業の取り組みだと考えます。環境に対する意識を持っている企業もあると思いますが、どのような取り組みをしていくか模索している企業、意識の低い企業もあることでしょう。

環境に対する意識を持ち、取り組みを行っている企業などに「エコ宣言」(エコ企業宣言)をしてもらい、エコ企業のモデルとなってもらいます。企業が社会的存在である以上、環境保護が叫ばれている現在、企業として取り組むべき事柄であり、社会に対する責任の一つだと考えます。

県では、こうした取り組みを表彰し、その企業が社会的責任を果たし、社会に貢献していることを紹介していきます。エコ宣言とエコ表彰について広く紹介していくことで、企業がどんな取り組みを行っているか、環境にどのように配慮しているかなどを県のホームページや広報紙で情報を発信し、企業の活動を誘導していくことが必要です。

企業の取り組みとしては、以下のようなものが考えられます。

<例>

- ・ カーシェアリング、通勤バス運行、パークアンドライドの奨励・推進

山梨は車社会と言われているが、企業のちょっとした発想転換でCO₂は削減できる。

- ・ 企業エコチャレンジ(企業CO₂削減家計簿)

企業にも環境家計簿を作成してもらい、削減率により表彰制度を設ける。

- ・ コンビニ等の短縮営業

短縮営業を実施した店舗には、県産物の特別販売や優先入荷等のメリットや、新規店舗には県産材建物を特別価格にて販売するなど優遇措置をする。

他県では地球温暖化対策で、繁華街のネオン点灯時間やデパートなど商業施設の営業時間を規制する条例も検討され、夜型のライフスタイルを見直すことで二酸化炭素(CO₂)排出量削減につなげているが、山梨では自主性を重んじ企業にとってのメリットを与えることにより進めていく。

環境を守るためには、私たちが日常生活で実践を積み重ねていく必要があります。しかし、私たち個人の実践だけでは限界があり、できないこともあります。そこで、さらに環境を守るために、山梨県特有の資源である森林を整備することについても考え、以下に提案していきます。

5. 森林整備

山梨県の面積の78%にあたる34万7千ヘクタールは森林で、このうち民有林が55%と一番多く、県有林は44%、国有林が1%となっています。これらの森林をどのように整備していくのか、そして林業をどのように活性化していくのかは大きな課題です。

山梨県の森林は、豊かな自然を織りなし、県民に恵みをもたらす大きな財産です。私たちは、この財産の価値を知り、感謝し守っていかねばなりません。そして、次世代に残していかなければならないと思います。身近にある財産というのは、往々にして見過ごしがちで、気がつかないものです。無くしてみても初めて分かるというのでは遅すぎます。

森林を整備することは、二酸化炭素の吸収力を高め、地球温暖化防止策になります。また、生態系を維持し、空気をきれいにするなどにも繋がります。

このように考えてみると、環境を守るためには、森林を整備することがとても重要なことであり、今行わなければならないことです。

森林を整備するためにはどんなことをしていかなければならないか考え、以下のことを提案します。

森林整備の推進に必要な人材を育成するとともに、活動できる仕組みを作る。

県民にとって、山梨県は自然豊かな素晴らしい県です。この環境を守るためには、県民皆で協力していかなければなりません。しかし、森林整備をしようと思っても、人がいなければできません。このため、まず、人材を育成し、その人材が活動できる仕組みを作ることが大切です。

都市交流を図る。

都市部の人にとって、山梨県の自然には魅力があります。都市部には「森林整備」体験をしたい人がいます。都市部との交流を図り、森林を整備することが有意義ではないでしょうか。

森林は、社会共有の財産なので、みんなで守っていくことが大切です。都市部の人たちが山梨県の森林整備に関わることで、山梨県を第二のふるさととして考えてもらうような取り組みも必要です。

森林整備を推進していくためには、企業の社会貢献活動と連携したり、100万本植樹運動のような県民運動的な活動が必要です。

また、林業活性化のために、間伐材や用材の端材、おが屑など、これまで利用しにくかった木材の有効利用を図る必要があります。有効な方法の一つとして間伐材を燃料のペレットとして利用することも考えられます。

提案に寄せて

環境対策を検討するにあたり、山梨県ではさまざまな活動をしていることが分かりました。しかし、私たちを始め、多くの県民はその活動をあまり知らないのではないのでしょうか。

6月30日から始まった全県(県下107店舗)での「ノーレジ袋」の取り組みは、全国でも2番目という早い取り組みだと聞きました。全県挙げての取り組みは誇れるものであり、次への礎になるものです。

都留市での家中川小水力発電所「元気くん1号」の取り組みは全国的にも高く評価され、ストップ温暖化活動コンテスト(環境省主催)で金賞を受賞しました。元気くん1号は財源の一部として、ミニ公募債(つるのおんがえし債)を発行し、市民参加型で取り組みました。今後、新エネルギー(風力・太陽光等)の発電所設置には、他県へのPR・財源確保の点からも県内外を問わず、エネルギー債を募ることも必要になってくるのかもしれない。

また、「NPO法人スペースふう」は、リユース食器のレンタル事業などを通して循環型社会の実現を目指した活動が評価され、今年度、女性のチャレンジ賞特別部門賞(内閣府)を受賞しています。

このような様々な取り組み、山梨県の現状を知る機会をもっと増やし、県民に情報を提供していただきたいと思います。同時に、より効果的に情報を発信できるように、情報の内容、発信方法を十分検討していく必要があります。

自然や自分と大切な人が暮らす現状を知り、環境を守る行動を起こすこと、そして、一人一人では小さな力でも、思いを同じくする人が集まれば、それは大きな力となります。自らの義務と責任として環境を考え、行動を取ることができるようにしていかなければなりません。

私たちには、環境を守る責任、美しい自然を次世代に残す責任があります。私たちはそれぞれの立場での責任、果たすべき役割があります。今しなければ、気がつかなければ、将来悔いを残す結果となります。身近なところから、できることから始めていくことが大切です。

今こそ、県民が力を合わせ、コミュニケーションを取りながら、安心して暮らせ次世代へ繋げていける施策を、昨今の食糧事情や経済事情を不安と思わずに追い風に、他県には出来ない山梨らしい環境保全策を実施する時だと思います。

山梨県は、日本のシンボル霊峰富士をはじめ南アルプスや八ヶ岳などの山々や、これらを源とする河川や渓谷、湖沼など美しい山々と豊かな水に恵まれています。この豊かな環境を守るためにも、大人も子どもも一体となって活動し、環境の先進県になってほしいと願っています。

やまなし女性の知恵委員会 環境対策班 委員一同

石水真美子 稲垣由美子 上野しのぶ 小田切美知子 軽部妙子
小松美智子 櫻林いさを 中沢弥生 早川袈裟子 (五十音順)